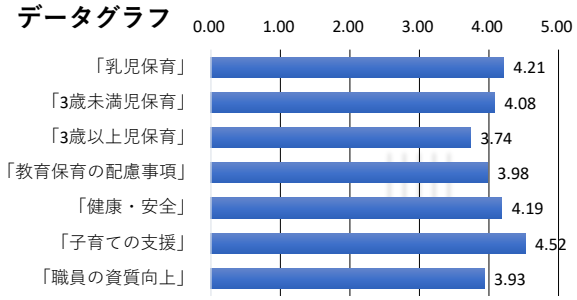
令和３　年度　　幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日	令和4年3月1日
法人名	園　名
森と風の郷	四季の森こども園

まとめ　　全体平均　4.02

第2章第2節 乳児期の園児の保育	子ども一人ひとりの様子や状態をよく観察し、寄り添い、泣き声や表情からその子の思いを汲み取るよう心掛けた。発達段階に合わせて一つ一つ出来るようになった事を喜び、子どもが何かを伝えようとしている時は、先に言ってしまうのではなく待つことによって伝えられた喜びを共に感じ、暖かい雰囲気の中で園児が心地よく過ごせるように、職員間での情報の共有を行っていき、安心と信頼を築けるようにしていきたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	保育者や友だち同士とのやり取りを通して、会話の楽しさを味わっている。「おはよう」「いただきます」「ありがとう」など、言葉にできない子どもに対しても、その子なりの挨拶を受け入れ、子どもが発信する言葉や気持ちに、心を傾けたい。行事に合わせて彩の添えられた飾りや食事、ワクワクするような活動に「何だろう」「やってみたい」と旺盛な好奇心を十分発揮して遊べるような、工夫をしていきたい。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	木育活動を通して色々な経験が出来た。木のぬくもりに触れたり、道具の名前や使い方、道具を使っているときの周りへの気配りなど貴重な体験となった。表現が難しい子もいるため寄り添い、段々と自分の思いを相手に伝えられるようになり、自分たちで生活の場を整えながら、見通しをもって生活するためには、子どもたちが主体的に遊びこみ、深い学びになるよう様々な体験活動に工夫や仕掛けをしていきたい。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	職員全体で園児に関わり、見守っていけるように努めた。一人ひとりの子どもを優先し保育教諭での共通理解を行い保護者の子育ての不安や悩みなど、保護者の気持ちに配慮して対応し、園児の成長や発達の喜びを共に共感していきたい。保育者に見守られながら一人ひとりの園児が自己発揮できるよう環境を整え、園児も職員も保護者も一人ひとりの可能性を伸ばせるような適切な援助を心掛けていきたい。
第3章 健康及び安全	コロナ禍での緊張感の中で、定期的な検温や消毒、換気や加湿にも気を付け対策をきちんと行うことができた。園児一人一人も手洗いやうがい・消毒と日常の中で身につけていくことができたように思う。安心・安全を一番に、子どもたちが食への興味関心が持てるよう行い、共通理解を深めながらこれからも子どもたちの食への関心を高めていきたい。応急処置の仕方、危機管理マニュアルやアレルギー対応を見直し、職員全体で周知していきたいと思う。
第4章 子育ての支援	地域の子育て支援や子育ての中心的な場として相談しやすい施設になるよう心掛け様々な活動を提供していきたい。個別に相談を受けたり、対応を考えたりしながらこれからも子育ての相談をしやすい環境や雰囲気を作りを心掛けていき、また配慮の必要な子どもに対しての特性の理解を、専門機関と協力しながら支援していくことを図っていきたい。
第5章 職員の資質向上	コロナ禍で研修の機会が減っていたが、web研修を取り入れ研修を行っていった。研修で学んだことは職員間でも共有し保育内容の充実が図られるように工夫していきたい。小グループ(未満児クラス・以上児クラス・木育班・食育班・環境班)でのミーティングを行い、意見を出し合える環境・充実を図っていきたい。
総合	園の保育・教育理念である「笑顔で　やさしく　しっかり抱いて　ゆっくりおろして　歩かせよ」の思いを大切に「昼間の家庭」として、日々の保育に取り組んできた。３歳以上児については昨年から取り組んできた木育が形となり展開が少しずつ見られてきた。未満児の小さな子は以上児の子にあこがれ真似をしながら挑戦していく姿がみられた。また、更なる子育て支援の充実を図り地域と繋がっていけるような園を目指していきたい。自己評価を行うことで日頃の保育の振り返りや改善点の気づきとなった。自己評価の低かった項目においては改善し、評価の高かった項目については更に質が高められるように園全体の更なる保育・教育の充実を図っていきたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.21
「3歳未満児保育」	32	4.08
「3歳以上児保育」	53	3.74
「教育保育の配慮事項」	16	3.98
「健康・安全」	29	4.19
「子育ての支援」	13	4.52
「職員の資質向上」	9	3.93
計	167	4.02

データグラフ